



臨機応変の対応力は実力だ!!大きく成長した林間学校



5月8日(火)から10日(木)までの3日間、1年生の林間学校が行われました。

前日の学年集会では、林間学校出発式を行い、最終の連絡、説明を受けた後、学年の生徒と先生全員で円陣を組み

『友情・団結・自立』南中1年ナンバーワン!!



と心をひとつにして、気合いを入れての出発でした。入学してからわずか16日の登校で迎える林間学校。この3日間の価値の大きさに気づいた人がほとんどだったのではないのでしょうか?入学式、オリエンテーション、部活動への入部、クラス役員・係の決定、家庭訪問、そして、林間学校へ向けての係会の取り組みなどあわただしく過ぎてきました。小学校を卒業し、中学校での生活に慣れるのに必死だったと思います。しかし、この林間学校では、言われる

がままについて行くだけでは中学生としての成長は期待できないので、真の中学生になるためには『自分たちの行事を自分たちでつくる』林間学校にしなくてはなりません。ひとりひとりの意識と力を合わせ、目標に向かって、協力することに全員で臨みました。

実行委員会を中心に、この学年の生徒、先生全員が一体となって『中学校で初めての学年行事である、林間学校を成功させるぞ!!』

と各委員会がしっかりと稼働したことで、小学生から中学生になることが出来ました。

○1日目(魚つかみ、親水公園から宿舎まで登山、8の字・大縄大会、餅つき)

鉢伏に向かう道中降っていた雨が、氷ノ山の麓では上がり、予定通り魚つかみを行いました。雪解け水はさすがに冷たかったものの魚を掴む熱気で大騒ぎでした。掴んだ魚は焚き火で焼いてくださり、美味しくいただきました。自然の中で美味しいお弁当をたのしく食べた後、歩いて宿舎の「みやま荘」へ向かいました。

試練の登山となり、クラスの仲間と声を掛け合いながら全員が自力で登り切ることが出来ました。入校式では、3日間お世話になる「みやま荘」の方へご挨拶をして、クラスの団結力、絆を高めるために、8の字・大縄大会に挑みました。どのクラスも試行錯誤して、いかに多く跳ぶことが出来るか意見が飛び交っていました。



夜には、クラスごとに餅つきをしました。全員が交代しながら餅をつき、どのクラスからも大きなかけ声のリズム良く聞こえてきました。夕食の”鶏すき”をお腹いっぱい食べたはずなのに、つきたてのお餅をあつという間に平らげ、残ったきなこをいつまでも舐めていました。



○2日目（飯ごう炊さん、大桂までの散策、キーホルダーづくり、キャンプファイヤーと学年レク）

前日の夜から激しく降った雨が少し残る朝を迎え、雨はやんだもののオリエンテーリングは危険と判断し、飯ごう炊さんで昼食のカレーライスをつくりました。かまどに火をつけるところから、ご飯の水の量、野菜の切り方など各班で知恵を出し合い、力を合わせて作ったカレーの味は格別だったようです。厳しい洗い物チェックに合格した班から高原で転げ回って遊び、クラスごとに兵庫県指定天然記念物別宮の大桂（樹齢400年）まで散策へ行きました。新緑の美しい時期で神秘的に包まれた大桂と目の前にひろがる棚田の雄大な風景も堪能しました。宿舎に到着したクラスから杉の間伐の枝木を自分の好きなサイズにのこぎりで切り、サントペーパーでひたすら磨き上げキーホルダーを製作しました。夕食の豚鍋、メのラーメンをお腹いっぱい食べた後は、念願のキャンプファイヤーと学年レクでした。山の神と養父郡キャラクターのハーフ、やまっぴーから人間の生活を豊かにしてきた聖なる火を授かりました。この火にそれぞれ『信頼』『協力』『正義』『努力』『勇気』『健康』を誓い、これからの中学校生活で勉強・行事・部活など自分に打ち勝つ力、乗り越える力に繋げていくことを約束しました。そして、学年レクでは、クラス対抗集団行動を楽しく行い、盛り上がりました。オンとオフの切り替えが非常に美しく、学年の実力の高さやセンスが光る瞬間をたくさん共有できました。



○3日目（オリエンテーリング）

最終日、素晴らしい天気恵まれて、オリエンテーリングをハーフサイズ（3時間コース）で行いました。途中、先生方の待つポイントを通るポイントラリー制で、鉢伏山頂上ではプロのカメラマンが待ち構えて班単位の写真撮影をしました。全員揃ってのゴールを目指して、班で助け合い、励まし合い、協力した結果、全ての班が無事にゴールして、スポーツドリンクを飲みながら笑顔で林間学校の集大成を飾ることが出来ました。

閉校式の時には、みやま荘の方から”あいさつ”と”行動”についてほめていただきました。「まず、大きな声であいさつが出来ること。お世話をしているとても気持ちよかった。大きな声であいさつをされて嫌な思いをする人はいない。自分にとってプラスがたくさんあるので大切にしたい。ふたつめは、200人以上の集団が、きびきびと動いている様子はとても感心だった。普段の中学校生活に戻ってもしっかりと生かして行って欲しい。」お言葉をいただいて嬉しいのは、生徒はもちろん先生達も同じ気持ちでした。

中学校生活の基礎が凝縮されたこの行事が、成功だったかどうかは卒業する時に決まります。ただ、この学年の”できる力”の可能性は∞（無限大）だと確信しました。これからの学校生活に、林間学校で身につけたことや気づいたこと、学んだことをおいに生かして、**仲間と共に成長**していきましょう。

